

富山縣營 愛本發電所起工

水力に恵まれた富山縣が縣營電氣事業として、さきに常願寺川水系に於ける六發電所を次々と竣功せしめて來たことは、同縣電氣局技師にして發電工事の主腦者たる打林清一氏の寄稿により、本誌上にも屢報したところであるが、同縣電氣局は今回更に黒部川水系に於ける四個所の發電所を開發する事となり、六月二十六日、先づ愛本發電所の地鎮祭並に起工式が舉行された。

愛本發電所は黒部川水系に於ける縣營四發電地點の内工事實施上最も有利な各種の條件を具備してゐるので、昭和八年十一月の臨時縣會を開き、先づ本發電所工事に着手することになった。之が事業費總額金8,439,000圓、發電力29,700キロワットで、昭和十一年六月迄に完成の豫定である。次に起工式當日齋藤富山縣知事が述べられた式辭の一節を引用して置く。

『此發電力は目下縣内東岩瀬町に於て建設中の日滿アルミニウム株式會社のアルミニウム製造工業に供給するものであります。

アルミニウム製造工業は從來本邦に於ても屢々計畫せられました、その消費電力が多量にして且つ最も低廉なものを必要條件としますため、今日迄企業の實現を見る事が出来なかつたのであります。従つて全部輸入品の使用を餘儀なくされて來たのであります、本品は軍事上並に國内文化生活上國內生産を最も急務とするのであります。然るに偶々滿洲及北鮮に無盡藏にある原礦を以てアルミニウム製造工業を企畫する日滿アルミニウム工業株式會社の懇望もあり、且つ又本縣對岸貿易振興並に工業縣建設の第一歩として、アルミニウム製造工業を本縣内に誘致する爲同工業成立の要素たる低廉にして豊富なる電力を供給し、以て縣營電氣事業をしての本來の目的にも合し得る様、さき同社と電力需給契約を締結し本發電工事の計畫を遂げたのであります。而して本事業完成迄には前途尙幾多の困難に遭遇すべく豫想されるのでありますから、官民一致協力萬難を排して本事業の完成に至らむことを切望してやまない次第であります、云々』左圖は黒部川水系富山縣營電氣事業一覽圖である。 ——(小山田二郎)

